

ざっくり
黙示録
外Ⅱ

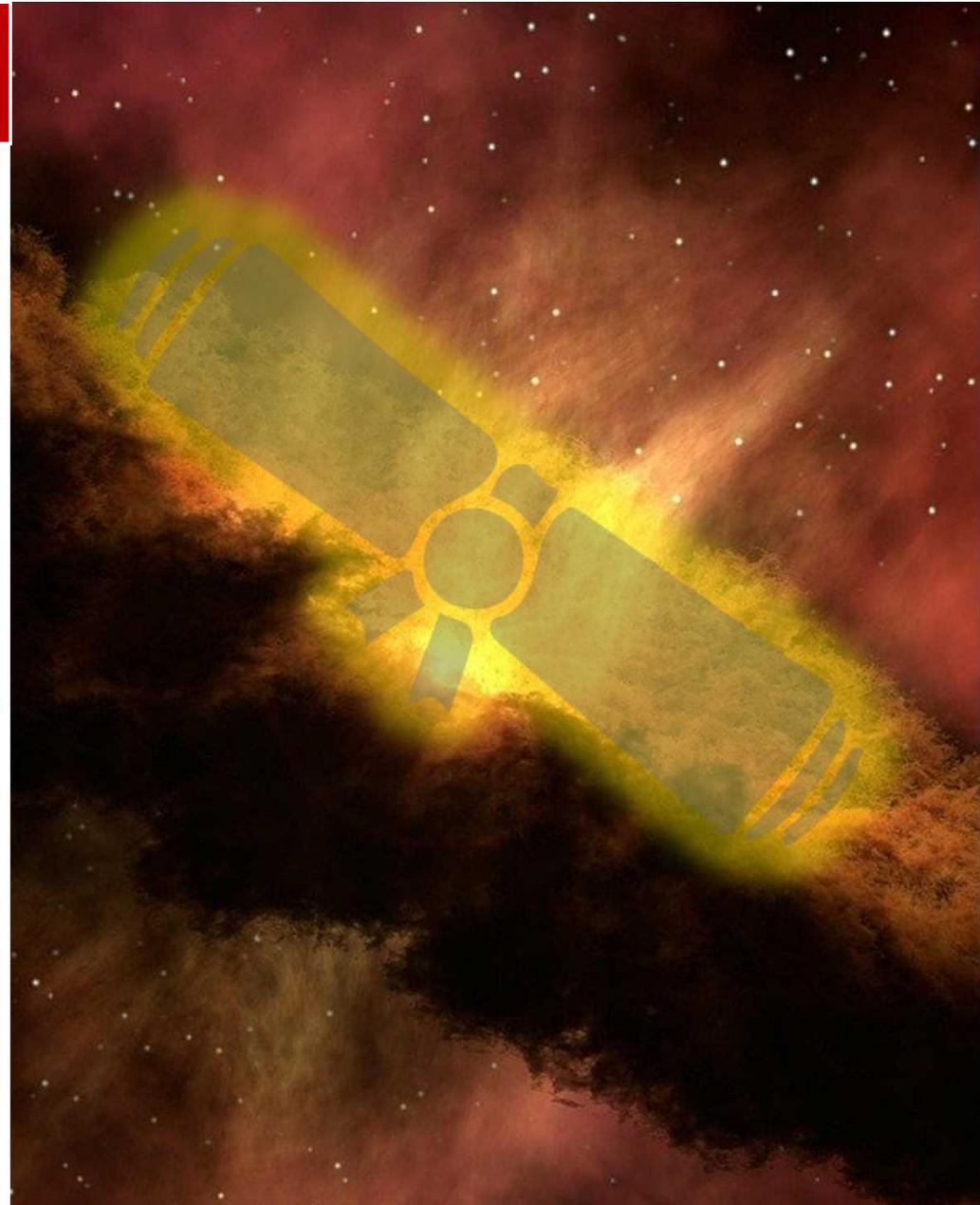


終末論の いろいろ

携拳 大患難時代 千年王国 再臨

アウトライン

- I. 聖書の原則を確認しよう
- II. 千年王国論のいろいろ
- III. 携拳論のいろいろ
- IV. 終末論で変わる生き方



A photograph of a sunset over a field of tall grasses. The sun is low on the horizon, creating a warm, golden glow. The sky is filled with scattered clouds, some of which are illuminated by the setting sun. The grasses in the foreground are silhouetted against the bright light of the sunset. A white banner is overlaid at the bottom of the image, containing the text "I. 聖書の原則を確認しよう".

I. 聖書の原則を確認しよう

世界についての二つの大きな考え方

★世界は、永遠。始まりも、終わりもない。

➡多神教。神道的・仏教的世界観。

★世界には、始まりがあり、終わりがある。

➡一神教。聖書的世界観・歴史観。



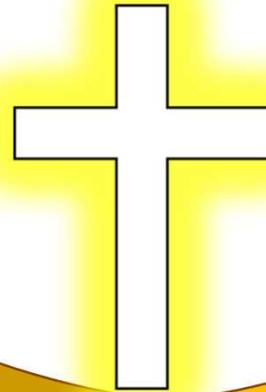
世界の終わりについての考え方 ➡ 終末論

聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活

世界の回復
キリストの
再臨



ゴールは、世界の回復。理想世界の実現

聖書の救いの大原則・信仰義認

創 15:6 「アブラムは【主】を信じた。
それで、それが彼の義と認められた。」

➡ **ただ主を信じて救われる。**
(聖書の救いの大原則)

※行いは、信じた結果として現れるもの。
行いによって救われるのではない!!



【神の計画の中心・アブラハム契約】

聖書全体を貫く、大原則。

神の世界回復と人類救済計画の柱。

アブラハムとその子孫(イスラエル)に結ばれた。



【三つの主な条項】

① **子孫の約束** ...アブラハムの子孫が繁栄する。

② **土地の約束** ...アブラハムと子孫に約束の土地が与えられる。

③ **祝福の約束** ...アブラハムの子孫から誕生する**メシア**が、
全人類を救いに導く。

神は、約束をいつか必ず完全に果たされる

聖書の歴史・イスラエルの歩みに学ぶ終末の原則

- 神は、イスラエルを導く規範として**律法**を与えた。
律法を守るなら祝福が、破れば呪いがあると教えられていた。
- イスラエルの地上の王国は、民の不信仰の結果、滅ぼされた。
- 神が忍耐して一から育んだ、選びの民イスラエルすら失敗した。
結論 → 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。

神の王国は、神が送るメシアによって建てられる！

聖書の原則を終末論を考える土台にしよう

- 人は、ただ主を**信じて**、神の怒りから救われる。行いによるのではない。
- 義なる神は、**約束**を完全に果たされる。
- 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。
- 神の王国は、神が送られる**メシア**によって建てられる。



Ⅱ. 千年王国論のいろいろ

聖書預言についての4つの異なる考え方

① **歴史主義** ...聖書預言は、すべて**教会のこと**である。
教会の歴史の過程で実現されていっている。

② **過去主義** ...聖書預言は、**1世紀にすべて成就** →「全的過去主義」
黙示録の最後だけ将来成就する →「部分的過去主義」

③ **観念主義** ...聖書預言は、**信者の霊的体験**のこと。
文字通り理解するべきではない。

④ **未来主義** ...実現されていない聖書預言は、**将来成就**する。

千年王国とは？ イザヤ書2:2～4

終わりの日に、【主】の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。

多くの民族が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家を上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。



エルサレムが
世界の中心に

主が全世界を
平和に治める

千年王国とは？ エレミヤ書33:14~17

「見よ、その時代が来る——【主】のことば——。
そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に
語ったいつくしみの約束を果たす。

その日、その時、わたしはダビデのために**義の若枝**
を芽生えさせる。**彼**はこの地に公正と義を行う。

その日、ユダは救われ、**エルサレム**は安らかに住み、
こうしてこの都は『【主】は私たちの義』と名づけ
られる。」

まことに【主】はこう言われる。「ダビデには、
イスラエルの家の王座に就く者が断たれることはない。」

アブラハム契約
の完全な成就

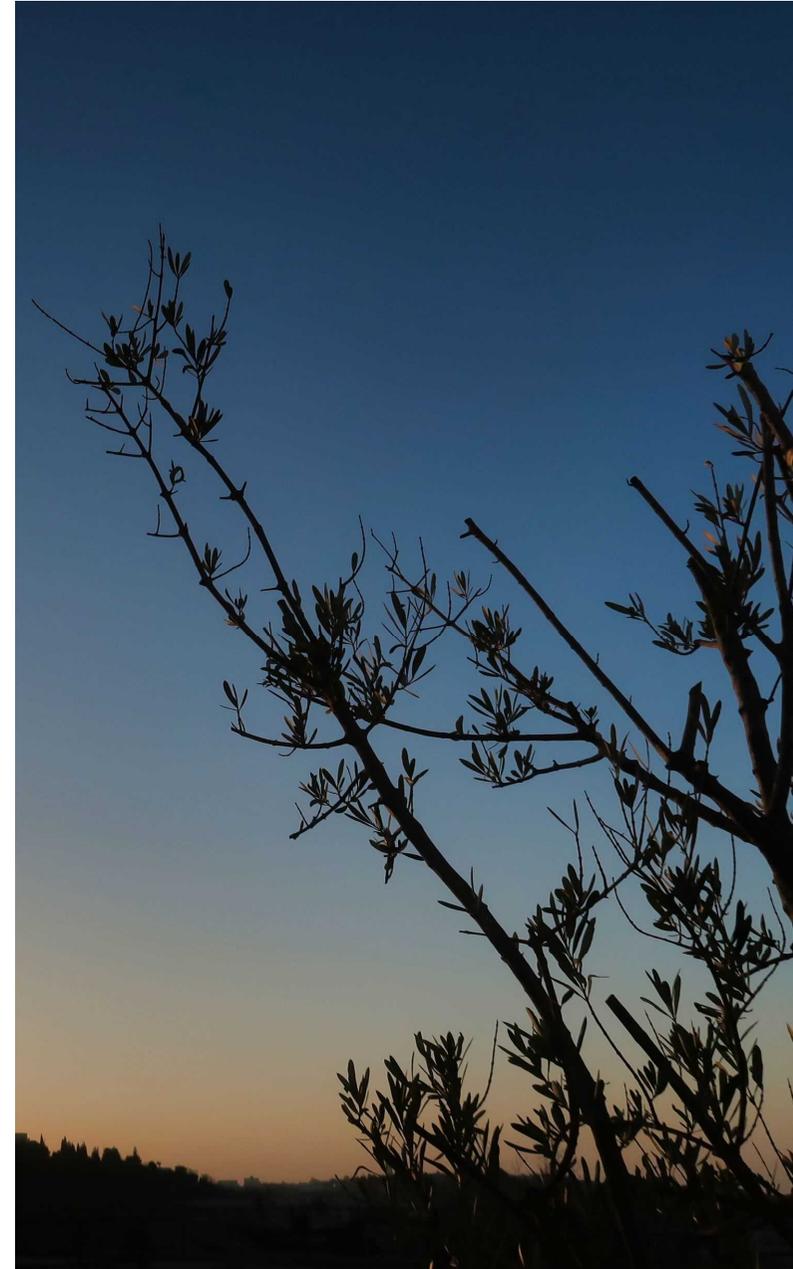
メシアが
世界の王に！

エルサレムが
永遠の都に

メシアが
永遠の王に！

千年王国とは？

- **メシア**が王となる神の国。
- 全世界が平和に治められる。
- **エルサレム**が世界の中心となる。
- **イスラエル**は、**メシア**と共に、**エルサレム**から世界を治める。
- **メシア**と**イスラエル**の支配は**永遠**に続く。



千年王国についての三つの説

- ① 千年期前再臨説** ...キリストが戻り、神の国を**地上に建設**。
神の王国は、千年間続く。初代教会の立場。
- ② 無千年王国説** ...神の国は**霊的**なもの。**教会こそ霊的な神の国**。
キリストは王として天から支配している。
国教化した教会で主流に。
- ③ 千年期後再臨説** ...神の王国は**人間の努力**によって完成する。
19世紀にアメリカを中心にプロテスタントに
広がるが、20世紀の世界大戦で衰退。

千年期前再臨説

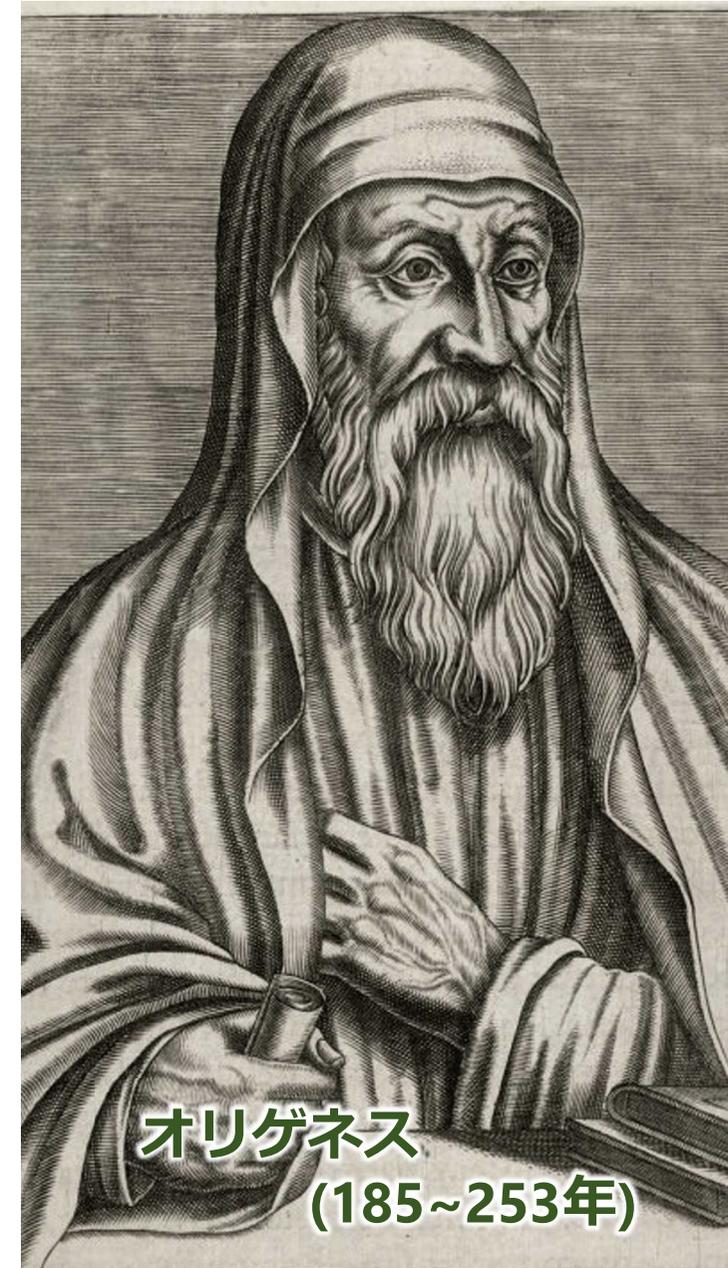
- 教会の初期には、**キリアズム**と呼ばれた。
(※キリアズムは、千という意味)
- キリストが再臨し、千年間統治する。
聖書預言は、**文字通り実現**する。
- **1~3世紀には主流**だった。
歴史資料から多くの歴史家も証言。
- 聖書の普及と共に、17世紀に回復。
- **キリアズム**こそ、最初にあった終末論。



ユスティノス
(100~165年)

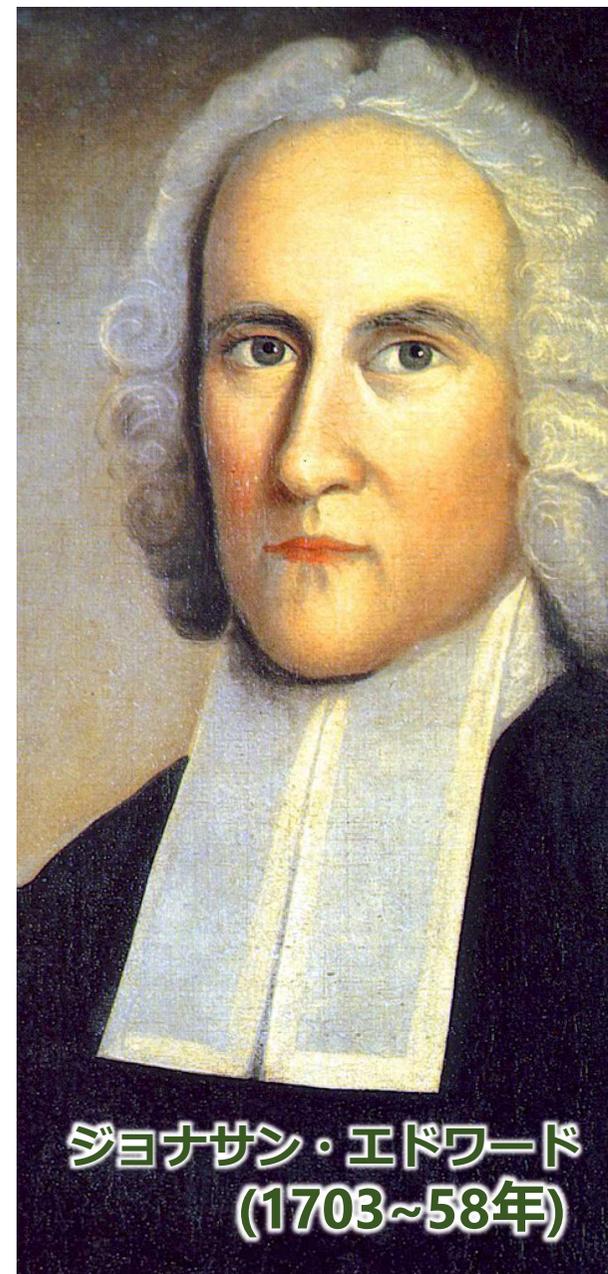
無千年王国説

- 東方教会では4世紀末には主流に。
➡反ユダヤ主義から、キリアズムを排除。
- **教会が霊的な神の王国**であるとする。
- **ギリシャ哲学**(霊は善、物質は悪)の影響。
オリゲネス(185~253)が**比喩的解釈**を提唱。
後にアウグスチヌス(354~430)も支持。
➡背景に、カトリック教会の勢力拡大。
- ルーテル派、改革派、聖公会も採用。
- 現代でも根強く支持される多数派。



千年期後再臨説

- 近世に出現し、19世紀に台頭。
背景に、近代の知的革命や産業革命。
- **人類は進歩し、黄金期を迎え**、キリストが再臨。
- 19世紀には、アメリカが全大陸を支配し、千年王国に導くと多くの牧師が説いていた。
- **歴史的楽観主義**は、世界大戦で吹っ飛んだ。
- **近年、再び台頭**。世俗的、反キリスト的に。



ジョナサン・エドワード
(1703~58年)

【三つの説の信仰的態度の違い】

- ① **千年期前再臨説** ...再臨したキリストが神の王国を建設する。
人間的努力の余地はない。あってもわずか。
- ② **無千年王国説** ...教会こそ、霊的な神の王国。
組織的教会の拡大こそが重要。
- ③ **千年期後再臨説** ...神の王国は人間の努力によって完成する。
教会の社会的な影響力の拡大が重要。



Ⅲ. 携拳論のいろいろ

教会の携挙・空中再臨とは？

- **教会**が、天のイエスのもとに挙げられること。
- この教会とは、会堂ではなく、地域教会でもなく、**普遍的教会・真の信者**のこと。
- ある瞬間、地上にいる、すべての真の信者が、突然、天のイエスのもとに生きたまま挙げられる。
- すでにパラダイスに召されている信者も共に、復活の体を与えられ、イエスのもとへ集められる。



携拳と再臨の違い

- ①携拳では、信者は**空中**で主と会う(I テサロニケ4:17)。
再臨では、信者は主と共に**地上**に戻ってくる(黙19:14)。
- ②携拳は、大患難時代の**前**に起こる(I テサ5:9,黙3:10)。
再臨は、大患難時代の**後**に起こる(黙6~19章)。
- ③携拳は、誰も気づかないうちに、**瞬時**に起こる(I コリ15:50~54)。
再臨は、**すべての人が目撃**する(黙1:7,マタイ24:15~30)。
- ④携拳は**目前**に迫っている(テト2:13, I テサ4:13~18)。
再臨は、**終末の出来事の後**に来る(Ⅱ テサ2:4,黙6~18章,マタ24章)。

携拳の時期に関する三つの節

①患難期前携拳説

...教会は大患難時代を通過しない。
携拳は、**今すぐにでも**起こりうる。

②患難期中携拳説

...教会は、大患難時代の前半を通過する。
第7のラツパ(黙11:15)の後、携拳は起こる。

③患難期後携拳説

...教会は、大患難時代を通過する。
携拳と再臨は、ほぼ同時に起こる。
➡カトリック、ギリシャ正教会、
多くのプロテスタント教会が支持。

患難期後携拳説

- **教会は、大患難時代を通過**する。
➔ 艱難期の「聖徒」は教会のこと。

聖徒は、大患難時代の回心者
大患難時代、教会は記されず

- **大患難は、サタンの怒り。**
再臨の主の裁きは、神の怒り。

サタンが大患難を起こす？
裁きを命じるのは主イエス！

- **携拳と再臨は連続**した一つの出来事。区別しない。

- **第一の復活**は大患難時代の後(黙20:4~5)、
I テサロニケ4:16の復活が、ここ。

- **すでに大患難時代**だと主張する人も。

不安をおおるだけでは？

患難期中携拳説

- **第7のラツパ**(黙11:15)がなると携拳が起こる。
➡これが終わりのラツパ(I コリ15:52)。

コリントの信者は、
第7のラツパは
知らない

- 教会は、**艱難時代の前半を通過**する。
反キリストは、中間に現れる。

聖書預言の
主の日は、裁き

- 背教 ➡不法の人の出現、➡主の日
“**主の日**(I テサ2:3)”を**携拳**と解釈。

- **神の御怒り**(I テサ5:9)は、大患難時代後半。

封印の裁きは、
御怒りではない？

患難期前携拳説

- 教会は、**大患難時代を通過しない**。
- 携拳は、**いつでも起こりうる**。
- 反キリストとイスラエルの契約が大患難時代の始まり。
- **教会**という言葉が大患難時代(黙6～19章)には出てこない。
- 患難期前携拳説だけが、**イスラエルを教会を一貫して区別**する。

大患難期前携拳説の聖書的根拠

(天から来られる)この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る**御怒り**から私たちを救い出してくださるイエスです。 Iテサ1:10

神は、私たちが**御怒り**を受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。 Iテサ 5:9

あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている**試練の時**には、わたしもあなたを守る。 黙 3:10

しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、**その日**が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。 Iテサ 5:4

聖書の原則に一致するのは、大患難期前携拳説

- 人は、ただ主を信じて御怒りから救われる。行いによるのではない。
 - ➡ **ただ福音を信じた者が、携拳される。**
- 義なる神は、約束を完全に果たされる。
 - ➡ 信者は、**御怒りを免れ、携拳される。**
- 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。
 - ➡ **将来のことは主に信頼し、福音宣教の使命に専念すればいい。**
- 神の王国は、神が送られる**メシア**によって建てられる。
 - ➡ **今の苦難は一時のもの。今を生きる力が与えられる。**



IV. 終末論で変わる生き方

確認しておくべき救いの原則

- ただ**福音を信じて救われる**。この原則は変わらない。
- 終末論の違いは、救いとは**無関係**。
- イエス・キリストの福音を信じた者は、すべて主にある**兄弟姉妹**。

終末論が多少異なっても、同じ福音に立っているなら、私たちは、クリスチャンとして共に歩んでいくことができる。教会がゆらぐのは、福音の根本、救いの原則が崩れるとき。

携拳も再臨も、信仰者の希望

- よく吟味した上で、一つの論に確信を持つのはよいこと。
- 「確定的でないことを断言すべきでない」と終末論を避けるなら、結局は、福音宣教もできなくなってしまうだろう。
- 見えないことを信じるのが**信仰**。確信して伝えるのが**福音宣教**。
- しかし、将来のことについて、100%正しいとは誰にも言えない。常に学びを重ね、自分自身を吟味する謙虚さを持つとう。

千年王国前再臨説・患難期前携拳説を支持する最大の理由

聖書が繰り返し教え、突きつけるのは、世界の現実。

人間はいかに罪深く、救いは神にしかないか。

世界の回復である神の国の建設は、
ただ、主イエスによってのみ、実現されること。

人間的な業の差し入る隙を全く与えない最も聖書的な終末論が、
千年王国前再臨説であり、**患難期前携拳説**

携拳も再臨も、信仰者の希望

- 人は、**信仰**によって神の怒りから救われ、**信仰**によって成長し、**信仰**によって主イエスの元に挙げられる。
- 信仰者に求められるのは、ただひたすら**主を信頼**すること。主の計画をさらに知り、主への信頼を深めて行くこと。
- 人間的努力や行いを強調すると、「そんな信仰で大患難時代に耐えられるのか」と脅迫になりがち。
- **携拳の備え**とは、救われた喜びをもって、日々み言葉に親しみ、滅びゆく魂への思いをもって、救いの福音を伝えること。

目的のない社会に生きる人々へ福音を伝えよう

「日本の重大な欠陥は、**最終目的**を持たずに、人々が生きており、企業が活動しており、社会が成立していることである。個人的には、生きる意味などない、動物として生まれたから、運命と本能に強いられて、生きているだけだ、と思っているから、目的などないし、わからないということに共感を持つ。小幡 績(経済学者)」

- 聖書は、人に**最終目的**を与える。
 - ➔ 主が再臨される時、神の王国に入れられること。
- 混沌とした時代、目的のない人々は、ますます病んでいくだろう。
 - ➔ 聖書の記す、**最終目的**を人々に伝えていこう。

「天のお父さま。わたしは、御子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主イエスは来(こ)られ、すべての信者(しんじゃ)を 永遠(えいえん)の王国(おうこく)へ 招(まね)き入(い)れてくださいます。

すべての涙(なみだ)は拭(ぬぐ)われ、苦痛(くつう)が取(と)り去(さ)られる よろこびのときがきます。

主の最終目的(さいしゅうもくてき)を 人々に伝(つた)える者(もの)として ここから遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年4月13日(火) 午前10時より

「新天新地」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時15分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★4月の予定：4/13(火), 4/27(火)